

報新團教

定 価 1部 140円(本体 133円+税 200円)
 予約購読料 1年分 千共 5,000円
 紙代のみ 3,500円
 振替 00140-9-145275

本紙を購読ご希望の方は、前金を
 そえて、お近くのキリスト教書店
 へお申し込み下さい。

教会の購読料は負担金に含みます。

発行所 **日本基督教団**
 169-0051 東京都新宿区西早稲田 2-3-18
 日本キリスト教会館内 電話 03(3202)0546
 FAX 03(3207)3918
 URL <http://uccj.org>

発行人 長崎哲夫
 編集主筆 渡邊 彦
 印刷所 株式会社きかんし



石井教会 (四国教区、徳島分区)

一行は目指す村に近づいたが、イエスはなおも先へ行こうとさ
れる様子だった。二人が、「一緒にお泊まりください。そろそろ
夕方になりますし、もう日も傾いていますから」と言って、無
理に引き止めたので、イエスは共に泊まるため家に入られた。
一緒に食事の席に着いたとき、イエスはパンを取り、賛美の祈
りを唱え、パンを裂いてお渡しになった。すると、二人の目が
開け、イエスだと分かったが、その姿は見えなくなった。二人
は、「道で話しておられるとき、また聖書を説明してくださった
とき、わたしたちの心は燃えていたではないか」と語り合った。
そして、時を移さず出発して、エルサレムに戻してみると、十
一人とその仲間が集まって、本当に主は復活して、シモンに現
れたと言っていた。二人も、道で起こったことや、パンを裂い
てくださったときにイエスだと分かった次第を話した。

ルカによる福音書 24 章 28 ～ 35 節

この世に立つ教会も勢いが年々無くなる傾向は続きます。

そのような私たちにイースターの日がやってきました。ハッピー・イースターとは手放しで喜べない私たちですが、ルカ福音書は良い知らせを告げます。ご一緒に3つのメッセージを聴きましよう。

まず、私たちの目はすぐ遮られてしまいます。厳しい現実の前に、復活の主イエスが分からなくなります。いつも主イエスと共に生きていると思っていても、主を見失うのです。

ところが、主イエスを見失う私たちのところへ、主の方から近づいてくださる

次に、二人がイエスだと気づいたのは、パン裂きの行為だったということでした。会話を教えではなく、主イエスのいつもの仕草で

心 が 燃 や さ れ て 伝 道 に

最後に、二人の心が燃え、仲間たちに伝えたい行動をしっかりと覚えたいと思います。ここに伝道の原点があります。

良い知らせを聞き、福音に触れ、沸きあがるような喜びと感謝が動機となって伝道するのです。時を移さず(33節)、難しさがあっても、邪魔されても、たと

あったのです。興味ある事実です。私の仕える教会では、毎月1回の聖餐式を大事にします。礼拝において説教も賛美も祈りも欠かせ

え迫害されてもするのが伝道です。私たちが、伝えたくてたまらない思いにさせてくださいるのが、復活の主イエス・キリストです。

私が議長を務める四国教区は地方教会が多い教区です。伝道の厳しさを痛感しながら歩んでいます。しかし一方で開拓伝道を真剣に考え、伝道魂に燃える教会

信仰の土台を確かにしていただきます。復活の主イエスがパンを裂かれたことを想起し、復活の主と共に歩んでいることを確信できるのは幸いです。

~~~~~

もあります。

伝道は神さまのなる業で、私たちが必要とするのではなく、神が必要とされる教会を立てたいと願うことです。自分が救われた喜びを伝えたい、この素直な思いが、神さまのなる業の伝道に役立つことを信じます。

イースターおめでとうございいます。

(四国教区総会議長、  
石井教会牧師)

ルカ福音書24章13節以下の記事は、主イエスの復活の特徴をはっきり示しています。二人の弟子がエルサレムからエマオへ向かう途中、イエスが自身が近づき、二人の会話に加わりました、しかし二人の目は遮られて、イエスだと分りませんでした(16節)。

主イエスの弟子でありながら、目の前におられる主に気づけなかったとは考えられませんか。しかも主イエ

すとの会話が弾む道中を共にしながらのことです。道々彼らはエルサレムで起こった、十字架と復活を話題にしています。聖書全体の説き明かしを聞いているのです。

それでも彼らの目は遮られていたのです。二人の弟子にとって復活の主イエスが見えなかった理由は、主の十字架の死という出来事が、すべての望みを失ったからでした。

私たちも、予期せぬ出来事や絶望感に陥ることを経験します。2年前の3月11日の金曜日の出来事は、私の人生で最も大きなものでした。主日礼拝の説教準備がまったく進まず、ただ呆然とするのみでした。四国の地で地面は揺れなくても、体の震えが止まらなかつたことを鮮明に覚えています。2年たった今でも復興が遅々として進まない現実が、私たちの前にあります。

す。二人の弟子たちと同じように、この世の厳しい現実には私たちの目を遮ります。それでも3日後、待ったなしで主日がきました。ヨハネ福音書の講解説教中で7章21節以下が聖書箇所でした。主がこの世を去ることを告げる内容でしたが、「わたしはある」と主ご自身が2度言われています。主なる神がエジプト記で、モーセにその名を明

必死で尋ね求める説教者  
~~~~~

さて、二人の弟子たちの
目が開かれたのは、食事の
~~~~~

**目が開**

~~~~~

厳しい現

~~~~~

2年前の大きな出来事を  
経験し、私たちはそれぞれ  
努力しました。にもかかわら

かれる

席でパンを裂いて渡す行為の時でした。その時、その

夫に対して

らず、これからの希望がはつきり見えてこない現実があります。この世の様々な

姿は見えなくなつたとあります（31節）。何とも言えない不思議なことですが、これが復活の主イエスの大きな特徴です。目が遮られるのであります。そして共に歩んでくださいます。さらに言えば、復活の主イエスだと分かるまで、同行して

て見えない。目が開かれても見えなかったわけです。しかし、二人は心が燃えたと互いに語り合い、エルサレムへ直ちに引き返ししました。復活の主イエスとおくたさるるのではないでしょうか。

もつとも25節では「ああ、物分がが悪く、心が鈍く……」

会いたし興奮と喜ぶのを、仲間  
間に伝えるためでした。ある  
いは復活の主イエスが、  
自分たちのところに来てく  
ださったことを、報告した  
かったのかもしれない。

と主イエスが言われていま  
す。しかしそう言われつつ  
すつと付き合つてくたさる  
のであります。

な必要素であります。が、聖

# イースター メッセージ

心が燃える

ルカによる福音書24章13～35節



# 黒田道郎

かされた「わたしはある」という者だ」（３章 14 節）と結びつきます。神の御心を必死で尋ね求める説教者主イエスも私たちと共にあった。

目が開かれる

さて、二人の弟子たちの  
席でパンを裂いて渡す行為  
目が開かれたのは、食事の  
の時でした。その時、その

厳しい現実に対して

2年前の大きな出来事を  
経験し、私たちはそれぞれ  
努力しました。にもかかわ  
らず、これからの希望がは  
つきの見えてこない現実が  
あります。この世の様々な

# 主イエスの仕草

次に、二人がイエスだと気づいたのは、パン裂きの行爲だったということでした。会話を教えるではなく、主イエスのいつもの仕草で説教も賛美も祈りも欠かせ

ます。復活の主イエスがパンを裂かれたことを想起し、復活の主と共に歩んでいることを確信できるのは幸いです。

心が燃やされて伝道に

最後に、二人の心が燃え、  
え迫害されてもするのが伝

でもあります。

伝道は神さまのなさる業で、私たちが必要とするのではなく、神が必要とされる

共に祈り、支えよう！  
and support people and the Church together!

「東日本大震災救援募金のお願い」

教会の再建・補修、地域の復興・支援に向けての具体的な取り組みを日本基督教団として支援していくため、祈りと共に「**東日本大震災救援募金**」にご協力を下さいますよう、お願い申し上げます。

2013年3月  
教団救援対策本部長 石橋秀雄

目 標 額 10 億 円 (国内のみ)  
期 間 2011 年 7 月 1 日～2015 年 3 月 31 日  
振替番号 00110 - 6 - 639331  
加入者名 日本基督教団東日本大震災救援募金  
〒169-0051 東京都新宿区西早稲田 2-3-18-31

## 第 129 回 神奈川県教会総会

### 教区活動基本方策、計画原案どおり可決

#### 平良愛香新議長選出

2月23日、清水ヶ丘教会にて第129回神奈川県教会総会が開催された。神奈川県教会は年2回教区総会を行なう。開会時の出席議員は238名中175名であった。今回は、按手札執行、第1種教会建設、活動基本方策・計画、予算、三役・常置委員選挙、他が行なわれた。

正教師按手札に関する件では、受按志願者2名が所信を表明した。議場からは

教区形成基本方針に対する姿勢を問う質問があった。質疑の後、岩崎隆議長は、教団の教師検定試験は不当とまでは言わない人は」と前置きして按手札執行の賛成を求め採決、多数で可決、按手札執行した。

上星川教会が第1種教会となること承認された。上星川教会は、1950年に伝道を開始し、1963年伝道所承認、1964年第2種教会となった。20

11年末に現在地(横浜・保土ヶ谷区)に新会堂を建設し今回の第1種教会建設となった。

2013年度教区活動基本方策案、活動計画案では、原案に対して、須田拓議員(橋本)から「教区を挙げて主イエス・キリストの福音を伝道することに全力を注ぐ」という一文を「教区の宣教」の第1項目に加える修正動議が出され、修正案は採決、質疑の後、採決

された。修正案は181名中賛成80名により否決。原案が102名の賛成によって可決した。前文と40項目に亘る活動基本方策、5地区、並びに31の部・委員会・小委員会がそれぞれに策定したところの活動計画が実施される。

2013年度予算案は、前年比12万円増、5913万円の原案を賛成多数により可決した。

議長選挙は予備投票によ

つて候補者5名を選出し本投票を行なった。平良愛香現副議長(三・一)が有効投票数188票中105票によって当選した。副議長選挙は、同じく予備投票により候補者5名を選出、本投票を行なった。古谷正仁議員(時田)が有効投票数173票中108票によって当選した。正副議長の推薦により書記に三宅宣幸議員(元住吉)を選出した。この他、謝恩日献金教区



4765号記載「常設委員会等委員選考結果」確定報告

服部修、若月健悟、渡部和使、【左近深恵子、八木浩史】、【小池磨理子、福島純雄】

成田いつし、山畑謙、【山元克之】、【川島直道】

◎教育委員会

清藤淳(招)、有澤慎一、

算伸子、兼清啓司、【増

田将平、加藤孔二】、伊

藤英志、塚本一正】

◎社会委員会

釜土達雄(招)、押川幸

男、野村稔、村上恵理

也、芳澤信、【岡本康

夫】、【柴田もゆる】

特設委員会

◎教区活動連帯金検討委

員会

伊藤瑞男(招)、愛澤豊

重、大村栄、高橋和人

高橋潤、鈴木功男

#### ▼教区活動連帯金検討委員会▲

### 「伝道資金」設置について修正議案提案

教区活動連帯金検討委員 2名が入り替わって2月7

会は3期目に入った。委員 日教団会議室において開か

れた。

組織会は互選により、委

員長に伊藤瑞男、書記に鈴

木功男を選任、委員は大村

栄、高橋和人、高橋潤、愛

澤豊重(予算決算委員会招

集者)である。

先ず、本委員会に課せら

れた役割を確認し、継続審

議となつて議案に至る

までの経過について、前期

委員会の高橋和人書記が説

明した。更に共通理解を深

めるために自由な意見交換

を行い、以下の共通理解を

得た。

(1)2009年9月、教区

議長会による配分協議会は

行き詰まり、27総会議案の

精神に戻るべきだとして内

藤留幸絵幹事に打開策を委

託した。これにより、第36

総会期第4回常議員会にお

いて本委員会が設置され

た。

(2)27総会議案の決議は、

平衡資金から教区活動連帯

金と名称を変更、全教区経

常収入の1%を拠出し、配

分は教区議長会の協議によ

るものとし、そのメンバー

に宣教委員長、伝道委員長、

予算決算委員長が加わると

した。しかし、その伝道推

進の趣旨は生かされず、決

議事項は20年間一度も守ら

れることなく、期待された

連帯は崩れた。この間、教

勢は衰退の一途を辿り、危

機に直面している。

(3)この教区活動連帯金そ

のものは、当初から教規上

の位置づけも、常議員会や

教団総会に対する公的な報

告もなく、確立した制度で

#### ▼部落解放センター運営委員会▼

## 九州教区キャラバンを開催予定

2月12日、教団会議室において今総会期第1回部落解放センター運営委員会が開催された。出席者は25名。組織会がなされ、運営委員長に東谷誠(大阪教区)、書記に多田玲一(九州教区)が選出された。運営委員会

の冒頭、小柳伸顕活動委員長から「部落解放センターの源流は広島キリスト教社会館が出来るまで」の発題が行われた。

毎回新しい運営委員が組織される度に確認してきた「運営委員の役割」が再確認され、今委員会の日付けで各教区議長へ送ることとした。常任運営委員会、活動委員会を組織、それぞれ承認された。

通常会計、特別会計、それぞれ監査報告および新年度予算が承認された。活動献金の目標額は前年度と同額で承認。また、申し込



後列左から、生地、片岡、川上、柴田、多田、駒木(監事)、井殿、笹井、佐藤、森(監事)、丹波(職員)

前列左から、小林(職員)、亀岡、安田、宮田、森田、小柳(活動委員)、江戸、東谷、長崎(総幹事)、大久保、河村、谷本(職員)

みが出ていた今井基金の申請についても承認された。

前期の2年間行われた「みなおし委員会」から、機構上、財政上、活動上のそれぞれのみなおしへの提言が出された。今回のみなおし作業の中で出てきた意見や課題は、今後の歩みの中で生かしていくことが確認された。なお広報誌については、新年度中に新しい体勢作りを進めていくことが報告された。

6月22日(土)～7月3日(水)の予定で「部落解放九州教区キャラバン2013」が開催される。教区単位でのキャラバンの開催は、四国教区、関東教区に引き続いての開催である。

今キャラバンの隊長として小林明主事が選任され、キャラバン隊員が承認された。成功を願ってやまない。今回の全国会議は、開催

(多田玲一報)

福島第一原子力発電所事故三年目を迎えるに際しての議長声明

2013年3月11日  
日本基督教団総会議長 石橋秀雄

「産めよ、増えよ、海の水に満ちよ。」(創世記1章22節)  
東日本大震災から2年が経過しました。今この時も地震と津波によって困難な生活を強いられている方々、そして、放射能汚染によって住む家を失い、故郷を失い、不安の中に生活しておられる方々、原発事故の現場で被曝の危険を伴うなかで懸命にその対応に取り組んでおられる方々の上に、神のお守りがありますようにお祈りいたします。  
日本基督教団は昨年3月に発表した『福島第一原子力発電所事故に関する議長声明』において、「原子力発電というものが…神の創造の秩序を破壊し、命あるものの関係を断ち切る人類滅亡の危機の始まりとなりうることを指摘しました。  
私たちは地震国日本の狭い領土に原子力発電所を作り続けました。大自然の力はしばしば私たちの想定を超えており、今回の原発事故は、その力の前で人間の力がいかに脆弱なものであるかを明らかにしました。そして、核施設が制御不能となった場合、いかに悲惨な結果をもたらすかという事を示しております。  
東京電力福島第一原子力発電所事故直後に大量の放射能が大気と海に放出され、今なお放出され続けています。今回の原発事故で放出された放射能は、大気や海や土、そして人体と命あるものを犯し続け、命あるもののつながりを断ち切り、生態系を脅かし続けています。放射性廃棄物が放射能を排出しなくなるまでには1万年から10万年かかると言われています。また、放射性廃棄物の安定的な保管に関して日本政府はいかなる将来見通しも、具体的な計画も持っていません。さらに、どのような容器に入れて地中深く埋めたとしても、放射線が外部に放出されないという保証はありません。このような放射性廃棄物は世界中の原発で生み出され続けています。  
聖書においては、「産めよ、増えよ、海の水に満ちよ。」(創世記1章22節)と、海の中の命あるもの、空を飛ぶ命あるもの、地の命あるもの、そして人間を神は祝福されたこと、神とのつながりの中で、命ある全てのものが生きることが求められています。しかし、原子力発電は神が祝福された世界を破壊し、子どもたちの未来を閉ざす結果をもたらそうとしております。  
日本基督教団は、これまで放射能汚染の影響下にある幼稚園・保育園の環境整備、子どもたちの短期保養プログラム実施、放射能測定器購入補助等の救援・支援活動を推進して来ました。さらに今後、震災や原子力発電の問題に関する国際会議を日本において開催することを計画しております。  
人間の命よりも経済が優先されようとしている社会の動きの中で、自分自身の生活のあり方についての悔い改めを祈ると共に、この世界における私たちキリスト者の責任の重さを自覚しつつ、教団における諸活動や海外の教会との協力関係において、それぞれの取り組みを進めてまいりたいと思います。  
震災から3年目を迎えるに際し、原子力発電所の稼働停止と廃炉に向かっての処置がなされることをあらためて求めつつ、世界に神の創造の秩序が回復されるように、教団に属するすべての教会・伝道所において祈りを深めていただきたいと切望いたします。

日本基督教団議長声明に対する台湾基督長老教会の応答

2013年3月11日  
台湾基督長老教会総会議長 布興大立  
総幹事 張 徳 謙

東日本大震災2周年に際して、日本基督教団議長石橋秀雄牧師は、「東京電力福島第一原子力発電所事故3年目に際しての議長声明」を発表しました。台湾基督長老教会は、日本基督教団との長年の協力関係、及び基督の肢体として一つの肢体が苦しめば他の肢体も共に苦しむとの信仰の精神に基づき、3・11東日本大震災に受けた日本の苦難を日本基督教団と共に担うことを願っています。また日本基督教団が過去2年の間、震災からの復興に力を尽くして取り組んでいる努力とその働きを是とし、敬意を表します。  
ところで、福島第一原子力発電所の事故を通して、私たちは人類の傲慢さと弱さを見ることが出来ました。私たちは、これまで私たちの発明や設計は絶対に間違いがなく、安全で心配することがないと思っていました。原子力発電所の設計と核科学の運用の面でも同じ思いでした。しかし、一つの地震で引き起こされた自然災害は、過去2年の間の再建への取り組みで少しずつ現状を回復しつつありますが、原子力によって引き起こされた人為的災害は未だに手の付けようがありません。吐き出された放射線が土地や海洋やそこに生きる生物を汚染し、日本から他の地方にまで拡がっていくのを見るだけです。  
震災後、一時日本政府は全ての原子力発電所の運転を停止させましたが、政治的圧力によって再び再稼働させました。遺憾の極みです。  
現在台湾も、日本と同じように原子力発電所の安全性の問題に脅かされています。台湾の第一、第二、第三原子力発電所は、世界で最も危険な原子力発電所と言われていています。建設中の第四原子力発電所は、予算を追加し続けているだけでなく、その構造は「あちこちの会社の部品で組み立てた車」に例えられ、嘲られているほど、運転後の状況は実に心配です。3月9日、台湾の北部、中部、南部、東部の4地区で予定されている原発反対のパレードは、原発に対する台湾人の気持ちを表明しています。しかし、最近政府は、原発反対を決めるには高いハードルを設けた国民投票によって反対の決定を成立させず、その結果、第四原子力発電所を合法的に建設し続けています。

私たちは確信します。神が創造された世界は神の目に美しく、かつ祝福されています。  
私たちは一時の利便さのため、一時の利益のために、神の創造の美しさと秩序を破壊する権利は与えられていません。特に放射線のような、大気を汚染し、人類や他の生物の生命と安全を脅かし、その上、神の創造の美しさを破壊するような物質を処理する技術も能力を持ち得ない時、私たちはいい加減な原子力による科学技術至上の考えによって神の創造と祝福の世界を傷つけてはなりません。  
福島第一原子力発電所事故3年目に際して、私たちは再び悔い改めの心を持ちたいと思います。そして、福島第一原子力発電所の事故で苦痛と恐怖を被った人々は、この原発反対の声明で少しでも慰められるとともに、私たちは、双方の教会が手を繋ぎ、双方の政府に対し共同して原子力発電所の運転停止と廃炉に向けての具体的な取り組みを要求し、核ゼロの国に向かって前進することの出来るよう願っています。それにより、世界は神が創造された時のような神と人間との良き関係に立ち戻り、神の祝福を受けることが出来るようにと願います。

▼伝道委員会▲

「青年伝道」を今期の柱として

第38総会期第1回伝道委員会が2月11日、日本キリスト教会館で開催された。

今年委員は、小林克哉招集者、呉平安、川崎善三(姫路福音)、北川善也(洛北)、高承和(聖和)、成田(磐上)、山畑謙(小

金井緑町)、山元克之(花巻)の7名。

小林委員長、成田書記を選任した。各担当として、宣教委員に小林委員長、こ

ころの友(信徒の友)編集委員に北川・高各委員、農村伝道に北川・成田各委員、刑務所伝道に川崎・山

元各委員、さらに今期より、伝道推進室派遣に山畑委員、青年伝道担当に高・山元各委員を選任した。

今年委員会の方針を協議した。前期申し送り事項と伝道方策検討委員会の「基本提言」を踏まえ、教規に則って伝道委員会の使命を明確化した。今期計画の柱の一つとして「青年伝道」を加えることにした。

2013年度予算330万円の案を承認。前期発行した「伝道アイデアパンフレット」(頒布額200円)売上金は文書費に繰り入れる。

2012年度後期分会堂貸出金申請(2件)は、八王子ホテル伝道所(西東京)への1千万円、安永教会(西中国)への500万円の貸出を決定した。2013年度開拓伝道援助金申請(4件)は、本宮教会(東北)、八王子ホテル伝道所(西東

京)、川之江教会(四国)に各240万円、光教会(西中国)に160万円の援助を決定した。

第38総会期委員会の活動日程を決めた。特に「農村伝道に関する協議会」は、2014年2月24日、25日、会場は候補教区順に①西中国、②西東京、③大阪、のいずれかで開催。「教区伝道委員長会議」は、2014年6月23日、24日に、大阪教区で開催を予定している。

その他、伝道委員会の使命について再考、伝道推進室との連携の仕方等について協議した。また「教会中高生青年大会」の実施に向け教育委員会と伝道推進室委員会に連携を提案することになった。

次回委員会は6月24日、25日に中部教区で開催の予定。

(成田いしる)

消 息

小崎弘雄氏(隠退教師)



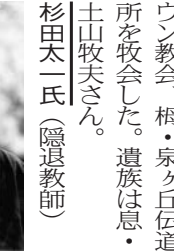
13年1月22日逝去、86歳。東京都に生まれる。'52年日本基督教神学専門学校を卒業。同年岡崎教会に赴任、07年まで刈谷教会を牧会

し、隠退した。遺族は息・小崎眞さん、娘・芹野恵美さん。



土山牧羔氏(梅・泉ヶ丘伝道所主任担任教師、泉北二ユータウン教会兼務担任教師) 13年1月28日逝去、93歳。大阪府に生まれる。'58年プ

リンストン大学大学院を修了。'48年阪南教会に赴任、大阪丸山教会、阪和泉ヶ丘教会を経て、泉北二ユータウン教会、梅・泉ヶ丘伝道所を牧会した。遺族は息・土山牧夫さん。



杉田太一氏(隠退教師) 13年1月29日逝去、87歳。

事務局報

補教師登録 川上真咲 (2012・12・3受允)

## 西東京教区 立川からしだね伝道所開設

# 教区が主体となり、 教区ならではの開拓伝道

### 教会を生み出す教区

西東京教区は現在JR立川駅周辺にて「教区が主体となって」「教区ならではの」開拓伝道を試みています。

1999年に設立された西東京教区は、設立の理念として「教会を生み出す」ことを掲げました。しかし、教区になって10年、教会を生み出せないで来ました。2008年「めじろ台教会」が設立されましたが、この教会は西支区時代の親教会群制度に始まった「八王子めじろ台伝道所」がようやく実った結果でした。新規の開拓としては、「阿佐ヶ谷恵み伝道所」一つでした。

そこで、教区伝道部（当時は大村栄現議長が委員長）を中心として、教区が主体となって教会を生み出す方向が、2005年辺りから模索されました。2005年から2007年にかけて、毎年秋季に開催される「教区伝道協議会」（富士箱根ランドスコレプラザ）では、「教区開拓伝道のビジョン」という主題を掲げて、「教区が主体となって」「教区ならではの」開拓伝道の推進を図りました。

### 立川伝道開始

2007年の定期教区総会において、「教区開拓伝道準備委員会」が設置されて、開拓伝道の準備が本格的に始まりました。この準備委員会は、詳細なフィールドワークを繰り返し、立川駅周辺にて開拓伝道を行うことが望ましいとの「結論に達した」との報告を行いました。

この報告を受けて、2008年の定期教区総会では、「教区開拓伝道実行委員会」の設置と立川駅南口近く「レンタルスペース99立川」を開拓伝道の最初の拠点とする決議がされました。

2008年9月7日主日の夕方6時半より、タカキが開始されました。以後今日まで2百回以上休むことなく続けられています。

2009年の定期教区総会では、「教区開拓伝道実行委員会」の向こう5年間（2010年度～2014年度）の設置が決議され、さらに本格的な開拓伝道が開始されました。2011年2月1日に現在の地「立川伝道センター」（JR立川駅北口徒歩10分、春城ビル2F）に拠点を移しました。

ここは、南口では（日曜夕方の時間借りで）行えなかった「週日の集会」を開始することが出来ました。まず「教区開拓伝道をおぼえて祈る会」（毎月第4月曜日午後）を始めました。まだ人数は少ないですが、「伝道は祈りに始まって祈りに終わる」という思いをもって実行委員会を中心に続けています。

2012年7月からは毎週水曜日午後1時～6時（第1水曜日は午後8時まで）「牧師面会日」を設けて、教職の実行委員4名と他の委員（教区伝道部）1名が交替で、駐在するようになりました。

### 伝道所開設

以上の経過に鑑みて、教区の常置委員会は伝道所を立ち上げる時期に至ったと判断して、2012年の定期教区

総会に「立川開拓伝道」を推進する件を提案したところほぼ満場一致で可決されました。この段階では、「伝道所開設を目指して行く」というものでしたが、同年内に、準備と機運は高まり、11月25日、アドベント前の主日の午後、吉祥寺教会にて開かれた教区臨時総会にて、「立川からしだね伝道所開設」の議案が、これもまた満場一致で承認されました。

2013年1月20日、石橋秀雄教団議長、伊藤瑞男教団副議長、長崎哲夫教団総幹事を迎えて総勢64名が見守る中、大村栄教区議長（阿佐ヶ谷教会牧師）を代務者とする開拓式が、真壁蔵教区副議長の司式にて、厳かに執り行われました。

こうしてようやく、「立川からしだね伝道所」という一つの霊的な教会（伝道所）の開設にまで至りました。

### 実を生み出す信

しかし、喜んでばかりはいられません。この伝道所を主の体なる教会に育てあげねばならないからです。目下の課題は、「専従者招聘」と「朝礼拝開始」の実現です。タカキ出席者の中には、まだ少ないですが、求道者やしばらく教会を離れていた方々もおられます。

この町（東京の西郊）には収穫の実が多くあります。収穫を刈り取る「働き手」が少ないのです。伝道は、「無駄」と「失敗」によって進みます。人の計算で実現する業ではありません。神の業です。収穫の主なる神を信じて、ひたすら種を播き続けて、刈り取る働きに徹するとき、必ずや多くの実を生むと信じます。

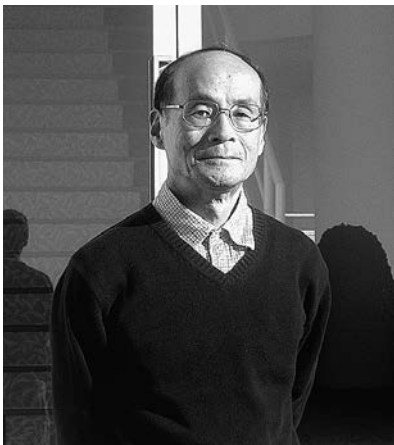
教団は、37総会期に続き、38総会期も石橋議長の下「伝道に燃える教団」を目指します。立川における開拓伝道が一つの契機になって、停滞する日本伝道に「伝道の炎」を投じたいと願っています。

（道家紀一報）



鈴木 秀信さん

## 伝道する教団の 前進のため



船橋教会員。「隠退教師を支える運動」推進委員会事務局長。

めであったが、今回実際の事務業務に初めて関わるということなり、その仕事量の多さに驚いている。

務めの内容に変化はあるが、運動に対する思いは変わることではない。これまで、そしてこれから大切にしたい思い、それは第一に、この運動の原点は、北海教区の一教会にあるということであり、それは同時に、この運動が完全な信徒運動であることを意味しているということである。教団の中で規模の大きい信徒運動の一つでもある。

第二に、この運動は、単に隠退後の教職を支えるだけではなく、現役の教職が、隠退後の生

総幹事就任以来、兼任となった渋谷の東京山手教会の聖書集会に

### 総幹事・牧師を 兼任して

何を言いたいと言うと、10月の教団総会で現任牧師の総幹事選任は、前任の竹前昇牧師の時もそうだったが、3月末の牧師退任ま

都会の事情もあるが、信徒の牧会に入院した人以外訪問しない。特段の相談でもなければ、集会で聖書を通して行なった。牧会は、先ず聖書にたどり着かせ、聖書で勝負することで、それが礼拝に結び付くことを願ったことだった。伝道師時代の数年は別として、それで東京・武蔵野における開拓伝道27年と現任教会18年を費いた。だからわたしは、教区や教団の仕事とは言え、必ずその日の内に教会に帰った。帰れたので集会が出来たのである。

（教団総幹事 長崎哲夫）